

# 第2章 計画事業の 推進状況

## 1 重点取組み

## 2 計画事業及び 市民活動事業

後期計画策定後の新規事業は、事業名を網掛けしています

⇒ (H22 新規、H23 新規)

実施計画事業は事業名の後に記載しています⇒ (実)

凡例：■…具体的事業

★…平成 22 年度の実績を記載

事業の方向性の基準値の経過は ( ) 内で記載しています。

⇒ (H20 : 〇〇 H21 : 〇〇)

決算（見込）額は算出できる事業のみ記載しています。正規職員が担っている事業について、人件費は反映していません。

## 第2章 計画事業の推進状況

### 1 重点取組み

#### (1) 保育環境の充実に努めます

国は、平成20(2008)年に「新待機児童ゼロ作戦」を定め、希望するすべての人が安心して子どもを預けて働くことができるためのサービスの受け皿を確保し、待機児童をゼロにするための取組みを推進しています。

本市においても、前期計画策定時には16か所あった保育所を17か所に増やすなど待機児童対策に努めてきましたが、女性の就労率の上昇などによる入所希望者の増加により待機児童の解消には至っていません。また、子育て家庭の就労形態が多様化し、保育ニーズも、延長保育や低年齢児、一時預かりなど多様化しています。

「新待機児ゼロ作戦」における、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)や保育サービスの質の確保等の視点を踏まえ、保育所以外での多様なサービスの提供方法を含めた検討を行い、待機児童解消をはじめとする様々な保育環境の質の向上、量の充実に努めます。

重点施策 1-4 保育サービスの充実 (P22~24)  
5-2 仕事と子育ての両立の推進 (P52)

#### 【推進状況】

保育園の新設や施設整備などにより、平成22年4月に比べて、平成23年4月には、2施設、定員で230人の増となり、待機児童数も44人で、13人減となりました。(表1・2) その他の保育サービスについても引き続き実施しました。(表3)

また、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)において、男女がともに子育てと仕事を両立できる社会を目指し、イベントやフォーラム、セミナーなどの実施及び情報誌「パスポート」を発行し、男女共同参画社会についての啓発に努めました。

■表1 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移 (受託児含) ■

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
保育所数	15	16	16	17	17	17	19
定員数(人)	1,315	1,375	1,411	1,506	1,536	1,642	1,872
入所児童数(人)	1,364	1,442	1,484	1,602	1,669	1,787	1,995
0~5歳人口(人)	7,830	8,042	8,072	8,094	8,121	8,120	8,185
入所率(%)	103.7	104.9	105.2	106.4	108.7	108.8	106.6
利用率(%)	17.4	17.9	18.4	19.8	20.6	22.0	24.4

※入所率は、定員に占める入所児童数の比率を示し、利用率は、0~5歳の人口に占める入所児童数の比率を示す。  
資料：保育課 各年度4月1日現在

■表2 年齢区分別保育待機児童数（市）■

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
0 歳	4	3	3	3	9	13	7
1 歳	9	16	9	15	16	28	22
2 歳	11	15	15	15	15	12	7
3 歳	3	5	5	1	4	3	7
4 歳以上	2	2	0	0	0	1	1
合 計	29	41	32	34	44	57	44

〔 資料：保育課 各年度4月1日現在 〕

■表3 後期計画策定時からの保育環境の推移と目標値■

事業名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値 (平成26年度)
通常保育事業 (1-4-1)	認可保育所受入数 1,669人	1,787人	1,995人	※1,827人
特定保育事業 (1-4-7)	一時預かり事業にて対応			
延長保育事業 (1-4-2)	17か所	17か所	17か所	19か所
夜間保育事業 (1-4-3)	未実施	未実施	未実施	検討
休日保育事業 (1-4-4)	2か所	2か所	2か所	2か所
病後児保育事業 (1-4-5)	1か所	1か所	1か所	1か所
一時預かり事業 (1-4-6・1-3-9)	9か所	9か所	9か所	9か所
放課後児童健全育成事 業(1-4-13・5-2-4 子どもの家)	16か所 定員数 655人	16か所 定員数 655人	16か所 定員数 655人	16か所 定員数 670人

〔 資料：保育課・青少年課 各年度4月1日現在 〕

※ 通常保育事業について、平成23年度に既に目標値を上回っていますが、待機児童の解消には至っていない状況であるため、待機児童ゼロを目指し、平成23年度中に作成予定の保育計画において目標値の見直しを図ってまいります。

【今後の取組み】

保育サービスのうち、家庭的保育（保育ママ）について、事業開始に向けて実施希望者の募集及び研修等を行い、平成23年度中の実施を目指します。

## (2) 市民ニーズにあった居場所を整備します

核家族化の進行や地域のつながりの希薄化などにより、子育て家庭の孤立化が懸念されています。また、市民・団体別懇談会では「妊娠中に孤独を感じる」といった意見もあり、妊娠期から地域や他の子育て家庭との関わりを持つことが重要です。

さらに、子どもの成長過程においても、さまざまな人とのふれあいや、鎌倉の特徴を生かした自然や歴史・文化などに触れる機会の確保が大切です。

本市では、子育て支援センターやつどいの広場、子ども会館や青少年会館など、子育て家庭や子どもの居場所づくりを進めてまいりました。しかしながら、施設が使いづらい、設備が不十分、施設があることを知らなかったとする人もいて、有効に利用されていない現状があります。

既存の公園や施設などを活用し、親や子、親子など、いろいろな対象に対するさまざまな種類の居場所づくりを行うとともに、利用者の視点から、使いやすい仕組みや、きっかけとなる仕掛け作りに取り組めます。

### 重点施策 4-3 子どもや親子の居場所づくりの推進 (P50)

#### 【推進状況】

地域での親子の居場所に、子育て支援センターやつどいの広場があります。それぞれ地域により異なりますが、昨年度に比べ利用者人数は増加しています。(表4・5) つどいの広場については、七里ガ浜・植木・玉縄の子ども会館で昼食時の飲食が可能となり、昼食をはさみ、継続して利用することができるようになりました。

また、七里ガ浜東地区を対象として街区公園再整備のワークショップを開催し、七里ガ浜東地区の公園についてバリアフリー化など整備を行いました。

■表4 子育て支援センター利用状況■ (年間利用者延人数)

会場 (開所年月)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
鎌倉子育て支援センター	9,842人	8,938人	10,953人
大船子育て支援センター	12,677人	12,085人	13,055人
深沢子育て支援センター	7,726人	7,781人	7,625人
平均	10,082人	9,601人	10,544人

■表5 つどいの広場利用状況■ (保護者+児童の1日平均利用者数)

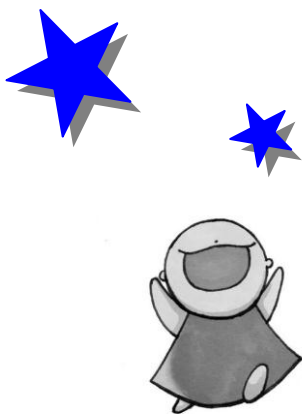
会場 (開所年月)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
七里ガ浜子ども会館 (H19.9~)	10.25人	7.8人	11.12人
植木子ども会館 (H20.7~)	25.28人	21.35人	30.18人
玉縄子ども会館 (H20.7~)	20.49人	24.59人	35.03人
腰越行政センター (H21.7~)	—	24.00人	18.51人
平均	18.67人	19.44人	23.71人

【今後の取組み】

子育て支援センター及びつどいの広場において、県派遣によるミニイベントを開催します。  
青少年会館を利用した若者たちの居場所作りを検討します。  
梶原子ども会館の有効活用について平成24年度実施を目指し検討します。



鎌倉子育て支援センター



大船子育て支援センター

### (3) 安心・安全を感じられる環境づくりを推進します

近年、子どもが被害者として巻き込まれる事件が多発し、また、凶悪性の強い事件の報道が目につくようになりました。幸い本市では、各地域で自主防犯活動団体による防犯パトロールや登下校時見守り活動が行われ、また、防犯アドバイザーの配置やこども安全パトロールなど、防犯体制の充実に努めるなどして、県内でも本市の犯罪発生率は低くなっていますが、幼小期に犯罪被害に遭った場合は、心理的トラウマなど生涯にわたる多大な影響が生じる可能性があります。

また、市内で出産できる施設が少なくなっている中で、安心して産み育てる環境を整備するため、平成 21 年 2 月に鎌倉市医師会立の産科診療所「ティアラかまくら」が開設され、その後の運営を支援しています。

様々な面でのさらなる安全・安心を感じられる環境づくりの推進が求められており、今後もその取組の充実に努めます。

重点施策 2-4 安心して生み育てられる医療体制の充実 (P32)  
4-2 安全・安心まちづくりの推進 (P47~49)

#### 【推進状況】

子育て施設の巡回やその周辺のパトロールを日常的にパトロールすることにより、犯罪を抑制することを目的としたこども安全パトロールや、防犯アドバイザーによる地域防犯パトロール、下校時の見守り活動等を実施しました。

子どもを対象とした不審者事案件数については、平成 21 年に比べ、10 件減少しました。

また、防犯アドバイザーが警察署、神奈川県（くらし安全指導員）など関連機関と連携して未就園児や小学校低学年を対象とした誘拐連れ去り防止教室など、身を守るための方法等を教える防犯教室を実施しました。市立小学校においては、児童安全指導も実施しました。(表 6)

また、平成 21 年 2 月に開設した鎌倉市医師会立産科診療所「ティアラかまくら」への運営支援を引続き行い、分娩数が増加しています。(表 7)

■表 6 鎌倉市内発生の不審者事案件数■ (地域別発生件数)

	内容	鎌倉	腰越	深沢	大船	玉縄	合計
平成 21 年	不審者・声かけ	9	1	5	7	8	30
	露出等変質者	2	3	0	3	1	9
平成 22 年	不審者・声かけ	5	2	3	1	2	13
	露出等変質者	2	2	1	8	3	16

〔資料：安全安心推進課 各年 1 月 1 日～12 月 31 日〕

■表7 ティアラかまくら運営状況■

	分娩数	外来・妊婦検診等
平成21年度	235件	延5,684件
平成22年度	322件	延7,010件

〔資料：市民健康課〕

【今後の取組み】

こども安全パトロールについて、従来の子育て支援施設の巡回及び周辺のパトロールに特化するのではなく、地域の防犯活動の推進を図る視点から事業を進めていきます。また、防犯アドバイザーによる子ども関連施設での防犯に関する相談や助言、防犯教室の開催などの機会を充実させ、さらなる、安全で安心して暮らせるまちづくりの推進を図ります。



ティアラかまくら

